

ニュースレター

Vol.11

三千里

삼천리철도

❖ 新たな鼓動

三千里鐵道 理事長 トサンテ 都相太

昨年5月17日に非武装地帯を越えて、南北の鐵道が開通しました。

キヨインソン 京義線 (ソウル—シニジュ 新義州間 518.5 キロ) では、南側ムンサンの汝山から北側ケソンの開城まで韓国の列車が走り、トンヘソン 東海線 (襄陽—アンピョン 安辺 192.6 キロ) では、北側クムガンサンの金剛山から南側チョジンの猪津まで北側の列車が走りました。



京義線は56年ぶり、東海線は57年ぶりの開通であります。

蟻の一穴という言葉がありますが、まさしく朝鮮半島にとって、平和と統一の象徴としての肯定的「蟻の一穴」になるに違いありません。

冷戦と分断の象徴としての38度線が、朝鮮半島の新たな動脈としての息遣いを取り戻した意味は非常に大きなものです。

昨年10月2日から始まったノムヒョン 盧武鉉大統領とキムジョンイル 金正日国防委員長との会談での8項目の合意は、2000年6月15日の共同宣言を、より具体化したものであります。(別掲した共同宣言全文を参照にしてください。)

この2月、韓国ではイミョンバク 盧武鉉大統領から李明博大統領に政権が移ります。

現政権の經濟問題が最大の争点となり、10年間続いた革新政権が保守政権に回帰するとマスコミなどでは騒がれていますが、こと南北問題に関しての後退はありえないと考えています。

結論的にいえば、南北の交流・融和・協力は双方の利益そのものであるからです。また、南北問題は東北アジアの平和にとって、最大級の案件でもあります。

なによりも南北が負担する膨大な国防費の削減の道を開かねばなりません。

戦争こそが、最大の環境問題といわれていますが、朝鮮半島での再びの戦禍の可能性を最小化しなければなりません。

在日韓国人の私にとって、朝鮮半島と日本の関係も大きな関心事であります。

歴史認識問題、拉致問題、核問題などにより、在日状況が朝鮮半島の変数として、われわれに覆いかぶさってきます。

在日としての立つべき姿と果たすべき役割を明確にしていきたいと考えています。

❖ 新年の辞

囲碁クラブ・三棋会会長 キムヒテ 金輝泰

明けましておめでとうございます。

8年前、分断された祖国の南北を鐵路で繋ごうと、とてつもない提案をされた人物が、三河の地から出たことに誇りを感じています。昨年は2回目の南北首脳会談が実現し、私たちにも統一が迫って来ると、段々と実感できるようになりました。

囲碁は「手談」とも言います。白黒の石を介して会話し、心を通わせるのです。私たちはいろいろな方たちの心と心を繋げて行く囲碁活動を通じて、三千里鐵道の夢の実現に少しでも手助けになればと願っています。

皆様のご活躍と幸せを祈念します。

◆ 大統領選挙雑感

三千里鐵道 事務局長 ハンキドク 韓基徳

2007年12月19日の大統領選挙は、予想にたがわず、ハンナラ党の李明博イミョンバクが圧勝した。

ろくな政策論争もしないまま、反盧情緒とBBK疑惑だけが目立った選挙の中で、最も注目すべきはといえば、これまでの選挙において、最大の争点と変数であった南北問題が争点から完全に消えていたということだろう。

それは、盧泰愚時代に始まった南北交流協力拡大路線が、金泳三キムヨンサムの金日成との首脳会談企図(金日成の死亡により成就せず)、金大中キムデジュンの『太陽政策』、盧武鉉ノムヒョンの『包容政策』と継承され発展する中で、もはや国民の合意事項になったということを示している。

冷静に世界の中での南の位相を考える時、北はとうの昔から敵であるはずはなかった。政治、外交、軍事のいずれを見ても、両者の差は歴然としていることに加えて、経済においては、南北の平和定着と協力拡大は、北よりもむしろ南の死活問題だからだ。

南北が緊張すれば海外からの南に対する投資が冷え込むことは、ムーディーズのような格付会社が明言してきたし、中国の台頭に直面し日本と中国に挟撃される南は『サンドイッチ・コリア』と形容されて久しい。特に短期的な視点で見ると、南は北との協商拡大しか生きる道はないのである。

私は、実は、李明博政権の誕生を消極的ながら望んでいた。韓国の政治風土では、進歩勢力は野党にいてこそ力を発揮できるとかねがね思ってきたからだが、実はもっと大きな理由がある。

南北和解協力に向かおうとする南の政治情勢に全く疎いまま、日本の反北・付和雷同・低レベル廃棄物垂れ流し言論に歩調を合わせてきたアナクロ民族団体に、良い薬になるのではないかと考えるからである。

李明博次期大統領の対北政策は、「非核・開放・3000」と称される。北が核を放棄し、開放政策を取った場合、北の国民の所得3000ドルを目指して協力するというものだ。

ひとまず、期待したいな。

◆ 三千里鐵道と私

三千里鐵道 副理事長 磯貝治良

京義線の貨物列車第1便が38線(サムパルソン)を越えて走った。その報に胸が高鳴った(ちょっと大げさかな)。三千里鐵道の活動に加わっていても、拍手を送っただろうが、ワクワクすることはなかっただろう。「三千里」のおかげで想いは2乗になった。活動はやや低迷気味だが、気持は持続していることを再確認。朝鮮半島の和解と統一は日本人にとっての「戦後責任」なのだから、持続はあたりまえなのだが。

なにかトピック(たとえば頂上会談や共同声明)な出来事があると、ワーッと盛り上がり、進展が止まると熱が冷める、といった情緒的なのは好きでない。その点、「三千里」の運動が地道に、具体的で、持続を旨としているところが魅力。

統一への志向は思想化されなくてはならない。その思想は血肉化されなくてはならない。でも、思想をイデオロギー化したり、理念的に謳いあげるばかりなのも、違和感を感じる。思想とワクワク感が結び合っこそ、力が発揮できそうだ。

7年前、三千里鐵道を立ち上げる場に出席した。都相太さんとは、名前は知っていたが面識はなかった。知った顔は、姜春根カンチュンさん、韓基徳ハンキドクさん、鄭戴宇チョンヂェウさんら数名。チュングニさんとは70年代初め頃、金芝河キムジハの救命運動で知り合い、キドギさんとは80年代の指紋押捺拒否運動で活動を共にして、それぞれ長い付き合い。チョン・ヂェウさんは在日朝鮮人作家を読む会のイベントに参加してくれたりした。わたしは生来、会長とか何々長とか、長の付くものは敬遠している。それなのに副理事長を二つ返事で引き受けたのは、協働して進める活動だから、日本人の窓口役もいたほうがいいと思ったから。また、旧知の人たちと濃厚でやりがいのある活動が出来そうだったから。思いは見事、的中。

おかげで鉄道連結の寄金を韓国政府に伝達した際には、丁世鉉チョンセヒョン統一部長官(当時)と言葉を交わせた。JSAツアーで板門店パンムンジョムを訪れて休戦会談が開かれた部屋にも入った。悲願の統一のために働く、韓国の市民活動家、かつての民主化運動の闘士、国会議員

などと会うことも出来た。朝鮮半島の和解と統一に向けてダイナミックに展開される、時々刻々の動きが幾分かは身近に感じられるようになった。事務局会議も（2次会の談論風発も含めて）時間の経つのが惜しい。半世紀近くさまざまな活動に関わってきたけど、重たいばかりのはずの会議が気持ちいいのは、七不思議だ。

三千里鐵道の活動に加わって一番、得をしているのは私らしい。得ばかりしては申し訳ないので、もう少し実（じつ）のある関わり方をしなくては……

+ シリーズ 十字路

在日コリア協議会、ついに出帆

2006年6月15日の南北共同宣言と昨年10月4日の宣言は、在日コリアンに祖国統一が夢でないことを強く印象づけた。すでに昨年から大統領が徒歩で超えた軍事境界線を、ソウル・ケソン間貨物列車の定期便が運行し、南北の軍事、経済、文化、スポーツ等すべての分野において活発な交流が進行している。

このような状況下において昨年8月4日、日本各地で地道な活動を続けてきた、在日のグループやサークルの代表者が一堂に集まった。

出席者は、それぞれの地域での活動を報告し、「在日の和合」、「コリアの平和」、「世界の融和」そして「大きな和」の実現に向けて力強く進んでいく決意を新たにした。

この日の会合では、会長、理事長等の人事、会の会則、当面の事業計画等も発表、承認された。

尚、在日コリア協議会の船出に際し、結成祝賀会を2008年3月16日（日）午後4時30分から、東京上野の東天紅にて開催する。

連絡先：在日同胞親睦会内 03-3835-2829



❖ シリーズ サラム・人

「在日」に生きて、心は錦

尹（平沼）^{ユン} 勇吉^{ユンギル}

兵庫県尼崎市在住、民族学校を通ったことのない在日でありながら、早くから祖国愛、民族愛に目覚め、信念を貫いてこられた。尼産高校を経て大阪経済大学を卒業、30歳で尼産建設（株）を設立、バブル絶頂期には大阪城より高いビルを建てることを夢見た人である。その傍ら、地域の民族学校や朝銀、商工会の仕事もしながらピョンヤンで金日成主席とも謁見している。

87年、尼産ビル5階に民族図書館「錦繡文庫」^{クムス}を開設、南北朝鮮と日本の架け橋になろうと、イベント、講演



など多彩な活動をしてきた。高校卒業の春、4.19の蜂起によって李承晩^{イスンマン}が倒れたとき、次の次、そのまた次の次くらいは自分が大統領になって国を変えようと思ったと笑いながら話した尹氏……。そんな尹さんが気の遠くなるような南北の閉塞状態に在日の立場から行動を起こそうとしたとしても何の不思議もない。

まさに錦繡文庫は尹さんの生き様、信念の結晶である。ここには書籍ばかりでなく、北の三池淵^{サムジョン}、済州島^{チュジュド}の名画が飾られ、日本の左右の政治家や学者、南北の文化人等の書や写真等が調和をなして配置されている。このような地道な活動が評価され、韓国「20世紀功勳人士総覧」にも掲載された。

一昨年の1月21日、尼産グループ35周年を祝う会が盛大に開催された。この日は、自叙伝「心は錦」の出版祝賀パーティーを兼ねた。尹さんの永年の活動を近くで見えてきた参加者から、会の後メッセージが寄せられた。もうこのような閉塞状況は嫌だ、錦繡の会みたいなものを作って在日からも何かしようではないかと。（裏面に続く）

今回結成された「在日コリア協議会」のシンボルマークは錦繡文庫のものが原型となっている。大きな和、輪……。60歳後半にさしかかった今も尹さんはこの輪の中核にあって、壮大な夢に向かって人生の再出発だ！と、気を吐く。

❖ シリーズ ハングル豆知識

안녕 (あんによん)

日常生活のなかでよくつかわれるハングルである안녕하세요 (あんによんはせよ) は、おはよう、こんにちは、안녕히 가세요 (あんによんひかせよ) は、お元気で、さようならの意味。



あまりにも生活に溶け込んでいるので、純ハングル語と錯覚されそうだが、実は「安寧」という漢字語。「国の安寧のために…」等と硬い使われ方もある。

若年層の親しい間柄では、안녕と互いに声をかける。その場合は、おはよう？それともさようなら？…さー、どちらでしょうか？

答えは「さようなら」、「バイバイ」。

ある地方都市に「안녕」という屋号の韓国風居酒屋がある。いらっしゃい、おはよう、と親しみを込めようとしたでしょうが、来店されるお客様にいきなり「バイバイ」では、いかにも無愛想。しかし、繁盛店のこの店、帰るお客様が「안녕」と、手を振れば「また来るね」と、聞こえなくもない。繁盛することを見越して屋号を決めたご主人に、脱帽！

❖ シリーズ 在日のルーツ・部落

住友金属の元飯場—佐脇原

太平洋戦争末期、日本の軍部は、アメリカ軍が日本分断を狙って、愛知県に上陸するであろうと考えた。特に渥美半島の付け根に位置する豊橋一帯は、大崎飛行場や豊川海軍工廠、住友金属製作所などの軍需産業や軍関連施設がひしめく軍都と化した。

1943年7月、主に零戦のプロペラやジュラルミ

ンの生産工場として、小坂井町に住友金属豊橋製作所が開設された。佐脇原は、その工場建設に従事した労務者の飯場として出発した。

小坂井町誌によると、当時建設に動員された労務者は4,500人、この中には学徒動員や徴用工も含まれている、と記されている。町誌はさらに、徴用工の中には300人の朝鮮人も含まれているとしたが、全容解明はされていない。

姜信培氏(81)は、当時朝鮮人労働者に混じって工場建設にかかわり、工場稼働後は旋盤工としても働いた。姜氏は、現在の小坂井中学校あたりを宿舎とした朝鮮人労働者が、監督等の監視のもとで集団行動をしていたようだと言った。

当時佐脇原は、各地から募集に応じ、身寄りを頼ってきた朝鮮人労務者でゴった返していた。村を束ねる実力者も、優秀な土木技術者もいたし、争いごとが起こると決まって双方をなだめる仲介役もいた。困った人がいれば互いに助け合い、冠婚葬祭などには村中が一緒になって、祝い悲しんだ。

日本本土にアメリカ軍の爆撃が始まった。住友金属も軍需工場として爆撃された。20歳前の姜氏は、突然の空襲に逃げ遅れ、敵機の機銃掃射を受けたという。間一髪で溝に隠れたが、その真横を弾丸が走った。今でもその時を振り返るとゾーっとするという。敗戦後廃墟と化した住友金属の跡地は町に返還されたが、佐脇原は朝鮮人部落として残り、今に至っている。

◆ 編集後記

皆様お元気ですか？久しぶりの編集作業ですが、1月末にはお手元に届くようにと鋭意努力しております。また今号からニュースレターのレイアウトをかえて制作しております。

さて2008年。北京オリンピック、米国大統領選挙、日本の総選挙？などなど。なにかと忙しい一年になりそうですが、健康であれば何とかなさ！と思いつつ、今年も元気よく頑張りたいと思います！

(ゆなっば改めせなっば)

NPO 法人 三千里鐵道

〒441-0091 愛知県豊橋市下五井町青木 31

☎ 0532-53-6999 <http://www.sanzenri.gr.jp/>

第2回南北首脳会談共同宣言全文

1. 南と北は6・15共同宣言の精神にのっとり、統一問題を自主的に解決していき、民族の尊厳と利益を重視し、すべてのことをこれに志向させていくことにした。南と北は6・15共同宣言を変わりなく履行していこうとの意志を反映し、6月15日を記念する方策を求めていくことにした。

2. 南と北は思想と制度の違いを超越し、南北関係を相互尊重と信頼関係にしっかりと転換していくことにした。

南と北は内部問題に干渉せず、南北関係問題を和解と協力、統一に合致するよう解決していくことにした。

南と北は南北関係を統一志向的に発展させていくため、それぞれ法律的、制度的装置を整備していくことにした。

南と北は南北関係拡大と発展に向けた問題を民族の念願に合わせて解決していくため、双方の議会など各分野での対話と接触を積極的に推進していくことにした。

3. 南と北は軍事的敵対関係を終息させ、朝鮮半島での緊張緩和と平和を保障するため緊密に協力していくことにした。

南と北は互いに敵対視せず、軍事的緊張を緩和し、紛争問題を対話と交渉を通じて解決していくことにした。

南と北は朝鮮半島でのいかなる戦争にも反対し、不可侵義務を確固として順守することにした。

南と北は西海（黄海）での偶発的衝突防止に向け共同漁労水域を指定し、この水域を平和水域とするための方策と各種協力事業に対する軍事的保障措置問題など軍事的信頼構築措置を協議するため、南側国防部長官と北側人民武力部部長間の会談を今年11月中に平壤で開催することにした。

4. 南と北は現在の休戦体制を終息させ、恒久的な平和体制を構築していくべきとの認識を同じくし、直接関連した3カ国または4カ国の首脳らが朝鮮半島地域で会い、終戦を宣言する問題を推進するため協力していくことにした。

南と北は朝鮮半島の核問題解決に向けた6カ国協議で、2005年9月19日の共同声明と今年2月13日の合意が順調に履行されるよう共同で努力していくことにした。

5. 南と北は民族経済の均衡的発展と共同の繁栄に向け、経済協力事業を共利共栄と有無相通の原則から積極的に活性化し、持続的に拡大発展させていくことにした。

南と北は経済協力に向けた投資を奨励し、基盤施設拡充と資源開発を積極的に推進し、民族内部協力事業の特殊性に合わせ各種の優待条件と特恵を優先的に付与することにした。

南と北は海州地域と周辺海域を包括する「西海平和協力特別地帯」を設置し、共同漁労区域と平和水域の設定、経済特区建設と海州港の活用、民間船舶の海州直航路の通過、漢江河口共同利用などを積極的に推進していくことにした。

南と北は開城工業地区1段階建設を早期に完工させ、2段階開発に着手して汶山^{ムンサン}～鳳東^{ボンドン}間の鉄

道貨物輸送を開始し、通行、通信、通関の問題をはじめとする諸般の制度的保障措置を速やかに完備することにした。

南と北は開城^{ケソン}～新義州^{シニジュ}の鉄道と、開城^{ケソン}～平壤^{ピョンヤン}の高速道路を共同で利用するための改補修問題を協議・推進することにした。

南と北は安辺^{アンピョン}と南浦^{ナムポ}に朝鮮協力団地を建設し、農業、保健医療、環境保護など複数の分野での協力事業を進めていくことにした。

南と北は南北経済協力団地事業の円滑な推進のため現在の「南北経済協力推進委員会」を副首相級の「南北経済協力共同委員会」に格上げすることにした。

6. 南と北は民族の悠久の歴史と優秀な文化を輝かせるため、歴史、言語、教育、科学技術、文化芸術、スポーツなど社会文化分野の交流と協力を発展させていくことにした。

南と北は白頭山^{バクトウサン}観光を実施し、これに向け白頭山～ソウルの直行路を開設することにした。

南と北は2008年北京オリンピックで南北の応援団が京義線列車を初めて利用して参加することにした。

7. 南と北は人道主義協力事業を積極的に推進していくことにした。

南と北は離れ離れになっている家族と親戚の再会を拡大し、映像や手紙の交換事業を推進することにした。

このために金剛山^{クムガンサン}面会所が完工されるのにもない、双方の代表を常駐させ、離れ離れの家族と親戚の再会を常時進めていくことにした。

南と北は自然災害をはじめとする災害が発生した場合、同胞愛と人道主義、相互扶助の原則に基づき積極的に協力していくことにした。

8. 南と北は国際舞台で民族の利益と海外同胞の権利と利益のための協力を強化していくことにした。

南と北はこの宣言の履行のため南北首相会談を開催することにし、1回目の会談を今年11月中にソウルで行うことにした。

南と北は南北関係発展に向け首脳らが随時会談し、懸案問題を話し合うことにした。

2007年10月4日

